

地方気象台長あいさつ

宮古島地方気象台長 松田博之



宮古島地方気象台のホームページをご覧くださいありがとうございます。

宮古島は「みやこブルー」と称される美しい海、青い空、東洋一といわれる白い砂浜、そして真紅のデイゴ、ホウオウボク、ブーゲンビリア、純白のテッポウユリといった天然色の草花が咲き誇る自然豊かな美しい島です。

宮古島地方の4月から5月上旬頃は、移動性高気圧におおわれて好天が続き、夏のような暑さも感じられる季節となります。このことから、一年のうちで最も温和な時期とされ、古くから「うりずん」「若夏」と呼ばれています。

宮古島では、4月1日には早くも海開きとなり、また4月18日（旧暦3月3日）には伝統行事の「浜下り（サニツ）」が行われ、各地の浜辺の浅瀬や珊瑚礁では新鮮な海の幸を求めて家族づれで賑わいます。

一方で、台風銀座と言われるほど台風接近が多い地域で、過去には「サラ」「コラ」「デラ」「マエミー」といった大型台風の接近により甚大な被害が発生しました。特に1966年の「コラ（第2宮古島台風）」で観測した最大瞬間風速85.3メートルは、日本における平地での一位の記録となっています。また、247年前の1771年4月24日には2,500人以上の住民の尊い命を奪うという明和の大津波もありました。

自然は、私たちに大きな恵みを与えてくれますが、時には牙をむくライオンのごとく豹変します。「自然は天使と悪魔の二つの顔を持つ」ということを心に刻み、常に最新の防災気象情報に基づき、自然を正しく恐れて災害に備える必要があります。

宮古島地方気象台は、昨年創立80周年を迎えました。これからも地元自治体や防災関係機関、報道機関などと連携し、宮古島地方の防災の拠点として地域住民の生命と財産を自然災害から守り、安心・安全を確保するための取り組みを積極的に行ってまいります。

皆様におかれましても、日頃から宮古島地方気象台のホームページを毎日の生活に役立てていただくとともに、台風対策など防災・減災に利活用されることを期待します。

引き続き、気象業務に対する皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（平成30年4月1日）